

令和3年度重点目標の評価

令和3年度 重点目標①	一時預かり事業とファミサポ事業の充実
取組内容	<p>○拠点多機能化で大事な親子が行きかうひろばの交流と一時預かりそして地域での預かり、この重層的な支援の拡がりによって子育て家庭にとってそれぞれの必要性に応じて柔軟に対応していく。</p> <p>○子育て家庭側だけでなく、預かりを通して家庭側への理解、関係性、愛着が深められる地域人材を増やしていくこと、この双方の丁寧なマッチングを深め拡げていくことで港北区における子育てしやすい環境づくりに繋げていくこと。</p> <p>○2つの機能を通じて行う研修事業を見直し、拠点活動以外でも活躍活動できる子育て支援関係者のすそ野を増やしていくことも目標とする。この目標達成にはつどいの広場事業含めて他、関係機関と協働で推進していく。</p>
取組の成果	<p>○地域子育て支援拠点での一時預かり事業（以下、ひととき預かり）をどろっぶ（R3.6.29～）、どろっぶサテライト（R3.7.29～）で開始、登録者569名、延べ利用者数2,093名の預かりを実施した。また、緊急枠を設け、当日の急な預かりにも柔軟に対応した。</p> <p>○横浜子育てパートナーが預かりの主訴や背景などを丁寧に聞き、ひととき預かりとファミリー・サポート・センター事業（以下、横浜子育てサポートシステム）が連携することにより、連続性のある預かりが実施できた。</p> <p>○申込のシステム化を行い、利用者の利便性向上を図るとともに、拠点の多機能化が図られ、重層的な支援体制を整えることができた。</p> <p>○乳幼児一時預かり事業や公立保育園、他関係機関に向けて、預かりニーズの傾向や親子の現状等について情報共有する機会を持った。</p> <p>○横浜子育てサポートシステム入会説明会のオンライン化を導入、来館しづらい層の参加に繋がった。また、参加者同士の距離が十分に確保できる広い会場で予定者研修を2回開催し、新たに提供、両方会員が43名増えた。</p> <p>○横浜子育てサポートシステム会員登録の更新手続きのオンライン化を進め、web更新がR2年度165名に対してR3年度は1,768名と約11倍に増加した。</p>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●ひととき預かりの利用ニーズは受け入れ枠以上にあるため、区内の一時預かり事業者と連携し、区域全体での預かりを推進する。 ●利用会員のニーズの多様化により、丁寧なコーディネートが必要とされているため、会員にとって安心につながる預かりあいの推進と共に、更なる提供会員の増加を図る。

令和3年度 重点目標②	地域力向上のための人材づくり
取組内容	<p>○新しい生活様式の一環で多くの子育て家庭の働き方が変化している。子ども、子育てを通じた地域のあり方に関心を寄せる層が増えてきていると感じている。この傾向にしっかりコミットし、関心事に伴走し、課題解決もしくはより良い子育て環境づくりの主体になっていくための場づくりを行う。その場を通じて、地域への関心度の高まり、また具体的にアクションに繋がった事例をとりまとめていく。</p> <p>○人口減となり、社会課題が深刻化する中、魅力ある区づくりのためにも若い子育て世代の地域への愛着、これからの未来を描く人材としてボランティア活動だけではなく新しい地域活動への関わり方を提案していく。結果、まずはどろっぶおよびどろっぶサテライトでのボランティア登録率のアップや活動の見える化を試みる。</p> <p>○地域課題だけでなく、テーマ性のある課題についても小地域で語れる場づくり、当事者による当事者課題が存分に語れる機会の保障と、当事者だけに委ねない課題の共有機会の創出。さまざまなセクターとの協働共創の視点をもった活動支援を心掛ける。</p>
取組の成果	<p>○子育て当事者メンバーによる、親と子のつどいの広場の妊娠期プログラムをより周知するための媒体を作成するなど、子育て世代が参画する機会をつくることができた。</p> <p>○ボランティア希望の方が増えてきたため、ボランティア希望者向けに拠点内の活動内容を一元化したリーフレットを作成、年間延べ1,840名がボランティアとして活動してくれた。</p> <p>○医療的ケア児等CO、面会交流支援団体、マザーズハローワークなど、多様なセクターとの情報共有を行い、連携した取組の企画を実施したことで、利用者の多様な個別ニーズに対応することができた。</p> <p>○行政との協働でバリアフリーに関する意見交換会を開催し、子育て当事者として日頃感じている課題や改善策などを意見交換できたことで、地域への愛着づくりのきっかけの場となった。</p> <p>○拠点利用者会議の試行実施、子育てサークルの協力を得て座談会の開催、公園遊び等の自主団体との連携などを通して、拠点利用者を地域活動への担い手として繋ぐことができた。</p>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動団体の実態把握と日常生活から地域活動につながる仕組みづくりに取組んでいく ●学生の活動の場の再構築とともに、若い世代に向けた地域活動参加への働きかけを強化していく

次年度重点目標

令和4年度 重点目標①	子育て支援に関わる区内全体での人材育成の基盤づくりの構築
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●子サポ予定者研修を入り口とした、区内全体での子育て支援に関心を寄せる層への研修体制を関係機関との協働により確立し、地域人材の活動の裾野を広げる。 ●関係機関や教育分野との連携をはじめ、20代の学生や子育て支援に関心が薄い層に対しても、現状課題や親子の預かりニーズ、具体的な事例など共有し、事業理解の促進を強化していく。 ●研修の一部オンライン化、近隣区やブロックごとの支部合同開催を企画するなど、研修受講の機会を増やしていくとともに、これまで開催していなかった地域や多様な層が集う場での試行実施を行い、効果検証していく。 ●区内の一時預かり事業に関わる事業者間で、相談傾向や預かりニーズを共有し、研修内容にも取り入れていくとともに、相互に連携しあえる関係性を構築していく。
令和4年度 重点目標②	多様な対象者に応じた「親になる前の支援」の充実を図るとともに、学生、子育て当事者、地域住民などみんなで子育てできる環境づくりを行う。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの土曜両親教室に加えて、新たにプレパパ向け、第2子向けの親になる前の準備の教室を実施する。 ●大規模マンションでの転入者が多いエリアでの0歳児向けの交流プログラムを試行実施し、当事者とともにコミュニティづくりを行う。 ●中学校などでのふれあい体験を継続し、これから親になる世代に向けて子育ての魅力を発信する
令和4年度 重点目標③	港北区内の情報の一元化と多様な層に向けた情報発信の構築
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●行政をはじめ、拠点や各機関から発行している情報関係の発行元を含めた紙媒体の実態把握と子育て家庭に届ける情報の一元化を図るため、整理・検討する。 ●区内産婦人科や小児科、薬局等とも、妊娠期からの切れ目ない支援として情報共有の場を持ち、これまで設置していた情報ファイルを更に利用しやすい形態で届けていく。 ●SNSを活用して、区域の子育て情報や現状を効果的に届ける仕掛けを考案し、幅広い層に向けて子育て・子育てへの関心を促進する。 ●子育ての社会資源が必要とされているエリアで、子育て情報発信の在り方や場づくりを検討していく。